

27「父よ、この時からわたしをお救いください…」

- ・イエスが自らの死を意識し、逡巡している。ゲッセマネの園での祈りと重なる。

28「わたしはすでに栄光を現した。わたしは再び栄光を現そう」

- ・ゲッセマネの園での祈りと違うのは父なる神から返答があった点。
- ・「すでに栄光を現した」が何を指すか特定することは難しいが、神であるイエスがこの地上に人間のかたちをもって到来したことが栄光であると言えるかもしれない。
- ・「再び栄光を現そう」とは十字架と復活を指すのだろう。

30「わたしのためではなく、あなたがたのためです」

- ・父の声が聞こえたことが周りにいる人々のためであったというのはどういうことか？

〈31-32節〉

- ・31-32節は十字架と復活という神の栄光が現されることによってもたらされることが述べられている。
- ・一つは、この世を支配するサタンが裁かれ、敗北するということ。
- ・もう一つは、信じる者がイエスの正体（メシア）を知り、救いに与ること。

34「私たちは律法によって、キリストはいつまでも生きると聞きましたが」

- ・例えば、以下の箇所。

Psa. 110:4 主は誓われた。思い直されることはない。

「あなたはメルキゼデクの例に倣い
とこしえに祭司である。」

Is. 9:7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、
ダビデの王座に就いて、その王国を治め、
さばきと正義によってこれを堅く立て、
これを支える。今よりとこしえまで。
万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。

Ezek. 37:25 彼らは、わたしがわたしのしもべヤコブに与え、あなたがたの先祖が住んだ地に住むようになる。そこには彼らとその子らとその子孫たちが、とこしえに住み、わたしのしもべダビデが永遠に彼らの君主となる。

Dan. 7:14 この方に、主権と栄誉と国が与えられ、
諸民族、諸国民、諸言語の者たちはみな、
この方に仕えることになった。
その主権は永遠の主権で、
過ぎ去ることがなく、
その国は滅びることがない。

- ・要するに、キリストは永遠の王として支配するお方なのだから、キリストが地上から取り去られてしまうことはないはずではないかという疑問。

35 「あなたがたは光があるうちに」

36 「自分に光があるうちに」

- ・どちらも同じギリシア語。
- ・直訳「あなたがたが光をもっている間」

35 「歩きなさい」

36 「光の子どもとなれるように、光を信じなさい」

- ・この文脈で「光の中を歩く」、「光を信じる」とは何を意味しているのか？

37 「イエスがこれほど多くのしるしを彼らの目の前で行われたのに」

- ・「多くのしるし」とはこれまで為されてきたイエスの数々のしるし。

〈38,40節のイザヤ書の引用の意図〉

- ・かつてイスラエルの民が預言者のことばに耳を傾けなかったように、今もユダヤ人がイエスのしるしを見ても信じないことを示そうとしている。

42 「パリサイ人たちを気にして、告白しなかった」

- ・イエスを信じる思いはあるけれども、公にして自分たちの立場を危うくしたくなかった。
- 神からの栄誉と人からの栄誉を両方求めた。二頭を追う者。
- しかし、イエス様の目からは、それは結局、人からの栄誉を愛したのであった（43節）

48 「その人をさばくものがあります」

- ・イエスのことばが終わりの日に私たちをさばく。それがさばきの基準。